

(1) 全世界：ポリオ患者の増加

世界的にポリオ患者数が増加しています。パキスタンとアフガニスタンでは今年になり73人の患者が発生しており、昨年同期に比べ4倍以上に増えています（WHO Outbreak news 2019-10-3）。ポリオワクチン由来のウイルスによる流行も、アジア、アフリカなどで発生しており、フィリピンではダバオ近郊の南ラオ州やマニラ南部のラグナ州で患者が確認されました（WHO Outbreak news 2019-9-24）。また、マニラ市内の下水などからもポリオウイルスが検出されています（Outbreak news today 2019-10-17）

アジアではフィリピン以外にも中国（四川省など）、インドネシア（パプア州）、ミャンマー（Kayin州など）でワクチン由来のポリオウイルスの患者が確認されています。ポリオの流行地域に滞在する際には、ワクチンの追加接種をご検討ください。とくに1975年～1977年生まれの方は、小児期に接種したワクチンの効果が弱いため、流行地域に短期滞在する場合でもワクチン接種をお奨めしています。

(2) アジア：各国のデング熱患者数は減少傾向

今年はアジア各国でデング熱患者数が例年の2倍～3倍発生しましたが、10月下旬になり減少傾向にあります。フィリピンでは32万人、マレーシアでは10万人、タイで10万人、シンガポールで1万人以上の患者が確認されました（WHO 西太平洋 2019-10-10、Outbreak news today 2019-10-17）。日本国内への輸入例も今年は371人で、昨年の2倍以上に増えています（IDWR 2019-40週）。さらに、今年の9月中旬、京都と奈良を修学旅行で訪問した都内の高校生2人がデング熱を発症しました（東京都福祉保健局 2019-10-16）。2014年以來の国内感染例です。実際の患者数はもっと多かった可能性もありますが、10月下旬には媒介するヒトスジシマカが少なくなるため、これ以上の国内流行はおきかないものと予想されています。

(3) アジア：パキスタンで多剤耐性の腸チフス菌が増加

WHOの発表によれば、パキスタンのカラチなどを中心に多剤耐性の腸チフス菌が流行しており、患者数は2016年から2018年8月までに1万人以上にのぼっています（WHO 東地中海 2019-8-25）。この腸チフス菌はほとんどの抗菌薬が効かないため、パキスタンや隣国のインドに滞在する際にはワクチン接種を受けておくことを推奨します。今年は欧米諸国での輸入例も報告されており、アイルランドでは9月中旬までにパキスタンからの帰国者3人が多剤耐性の腸チフス菌に感染していることが明らかになりました（ヨーロッパ CDC 2019-10-9）。

(4) アフリカ：コンゴのエボラ熱流行は緊急事態続行

WHOは10月18日に緊急委員会を開催し、コンゴ民主共和国で流行中のエボラ熱について、引き

続き公衆衛生上の緊急事態であるとの結論を出しました（WHO News 2019-10-18）。今年の7月17日にWHOは緊急事態宣言を発しましたが、その後、患者発生数は減少し、最近では1週間で15人になっています。4月は週に100人以上の患者が発生しており、大幅な減少です。しかし、地域によっては流行がコントロールされていないため、緊急事態の続行となりました。今回の流行での累積患者数は10月中旬までに3,227人で、このうち2,154人が死亡しています（WHO Outbreak news 2019-10-17）。

（5）ヨーロッパ：フランスでデング熱とジカ熱の国内感染が発生

フランス南部で8月～9月にデング熱患者が6人確認されました（米国CDC 2019-10-9）。このうち5人はカンヌ近郊、1人はリヨン近郊の住人で、いずれも国内感染と考えられています。またカンヌとマルセイユの間にあるイエールで、ジカ熱の患者が2名確認されました（ヨーロッパCDC 2019-10-23）。この2名は隣人で国内感染と考えられています。フランス南部にはヒトスジシマカが棲息しており、デング熱とジカ熱はこの蚊によって媒介された模様です。今回の流行は海外からの輸入症例を起点として、国内流行が発生したものと考えられていますが、フランス南部は10月には蚊が少なくなるため、これ以上の流行拡大はおきないと予想されています。